

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 5 月 27 日現在

機関番号：23601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2015

課題番号：23792725

研究課題名(和文)介護保険施設におけるせん妄発症予防に関するケアプログラムの実証的検討

研究課題名(英文) Empirical examination of a care program to prevent the progress of delirium in long-term care insurance facilities

研究代表者

江頭 有夏(松澤有夏)(EGASHIRA, Yuka)

長野県看護大学・看護学部・講師

研究者番号：30436894

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：介護老人保健施設において、せん妄を発症した認知症高齢者に対し、「せん妄重症化予防ケアプログラム」の介入を実施して、その有効性を検討することを目的とした。データは介入前後の身体・認知感情的機能、対象の言動、援助内容、睡眠覚醒時間を収集した。分析は対象の行動変化と実施した援助について事例別に検討し、身体・認知感情的機能と睡眠時間について、介入前後で統計的に比較した。

対象の平均年齢は88.9歳であった。介入した8例中6例で行動面が改善し、そのうち5例に睡眠の改善が認められた。また全例で「抑うつ」の得点が改善したと共に、「抑うつ」と「いらいら感」の得点に有意な差が認められた。

研究成果の概要(英文)：The objective of this study is to examine effectiveness of a care program to prevent the progress of delirium for the elderly with delirium living in geriatric health service facilities. Before and after the intervention, we measured the subjects' physical, cognitive and emotional functions. We measured the length of time of sleeping and being awake. We observed and recorded the details of 1) the care for the subjects and 2) the behaviors of the subjects. In the analysis of the individual subjects, the actual care for the subjects and changes of subjects' behaviors were examined. The average age of subjects was 88.9 years old. The intervention yielded significant effects including improvement of cognitive and emotional functions and changes of behaviors and sleep.

研究分野：老年看護学

キーワード：高齢者 せん妄 重症化予防ケア 介護保険施設

## 1. 研究開始当初の背景

せん妄は、認知力障害と覚醒・注意力障害に加え、睡眠覚醒リズム障害、不安、焦燥、幻覚、妄想など多彩な症状の組み合わせを呈する症候群である(武田, 2010)。せん妄の発症は、素因子、誘発因子、直接因子に分類される様々な要因によって引き起こされる(一瀬ら, 2006)。しかし同時に、高齢者の多くは脳気質性変化を伴うため、はっきりとした直接因子が証明されなくても容易にせん妄を起こすことも示されている(笹田ら, 2012)。

本研究を実施した介護老人保健施設(以下老健)は、入所者の9割以上が認知症を有しており(厚生労働省, 2011)、平均年齢は85歳以上である。認知症高齢者の老健入所理由は、本来の機能であるリハビリ目的よりも、家族介護者の介護負担や仕事の理由が多く(赤沼ら, 2010)、多くの入所者が特養入所待ちのために、複数の老健の長期入所を繰り返している現状がある。さらに認知症はせん妄発症の素因子であり(粟生田ら, 2007)、認知症を有する人のせん妄発症率は22~89%(Nina M. Flanagan et al, 2010)という報告から、一般病院の入院高齢者と比べて高率である。

以上から、老健の入所者は身体面の脆弱化と共に精神的な不全感をも持ち合わせており、施設入所者特有のせん妄発症リスクを有している。老健は医師や看護師が病院と比べて少なく、特に夜間は看護師1名と介護職員で対応しなければならない。せん妄は「急激な発症」が特徴の一つではあるが、いつから発症したのか、わからないことも多い。入所者のせん妄は身体かつ精神的な脆弱化から、重症化、長期化の可能性が高い。発症の有無に関わらず、症状がある場合は「せん妄が発症した可能性がある」と捉え、重症化予防のための援助を行う必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、老健においてせん妄を発症した認知症高齢者に対し、筆者らが作成した「せん妄重症化予防ケアプログラム」を実施して、その有効性を対象の行動、認知感情的機能、睡眠の側面から検討することである。

## 3. 研究の方法

### 1) 対象の選定

A県内にあり食事・排泄・入浴などの日常生活援助に看護職員が参加している老健から、研究協力への同意が得られたB施設を対象施設とした。対象は老健入所中のせん妄を発症した認知症高齢者であり、研究者が設定した選定基準を満たす者とした。

### 2) データ収集方法

#### 対象の言動と援助内容

介入中筆者は、週1回以上の頻度で施設に出向き、施設サービス計画に則って入所者のケアに参加しつつ、対象の言動を観察した。同時にケア提供者や彼らの記録から、対象の活動睡眠状況や、発熱など体調変化、家族の訪問などの偶発的な出来事についてデータ収集し、観察記録を作成した。

#### 身体・認知感情的機能

介入前後において、対象の身体・認知感情的機能をパーセルインデックス、MMSE、MOSES(高齢者用多元観察尺度、Multidimensional Observation Scale for Elderly Subject; 以下MOSESとする)の3つの尺度を用いて測定した。これらの測定は、筆者と看護・介護主任が協議しつつ実施した。

#### 睡眠覚醒時間の測定

対象の睡眠覚醒時間は、介入前後の3日間、対象にアクチグラフを装着して測定した。

### 3) 分析方法

#### 援助内容と対象の変化

観察記録から具体的な援助内容と介入前後の対象の行動を抽出し、対象の行動変化について事例別に検討した。

#### 身体・認知感情的機能の変化

パーセルインデックス、MMSEの総得点、

および MOSES 下位項目の合計得点は、介入前後で対象個別に比較し、さらに介入前後における 8 名の平均値の差の検定を行った。

#### 睡眠に関する変化

介入前後のアクチグラフデータから睡眠と覚醒を読み取って図式化し、模式図を作成した。介入前後における平均総睡眠時間について、平均値の差の検定を行った。

#### 4) 倫理的配慮

対象施設の施設長、看護管理者に対して、文書と口頭により研究の目的と方法に関して説明し、任意で承諾を得た。その後、対象とその家族へ同様の説明を行い、自由意思による研究への協力を求め、承諾を得た。また本研究は、所属大学倫理審査委員会および、対象施設が所属する医療法人の倫理委員会の承認を受けて実施した。

#### 4. 研究成果

対象 8 例の平均年齢は  $88.9 \pm 9.5$  歳であった。事例検討の結果、6 例に行動面の改善がそのうち 5 例に睡眠の改善が認められた。また全 8 例の MOSES 下位尺度「抑うつ」の得点が改善したと共に、介入前後における「抑うつ」と「いらいら感」の平均得点に有意な差が認められた。

#### 引用文献

- 武田雅敏(2010)：高齢者のせん妄，新老年学 第 3 版，(財)東京大学出版会，東京。
- 一瀬邦弘，中村満，竹澤健司，他 7 名(2006)：高齢者せん妄の特徴と診断，老年精神医学雑誌，17(6)，595-604。
- 笹田美和，石田徹，高瀬義昌，他 2 名(2012)：高齢者に伴う問題点と課題 在宅でせん妄を発症した 2 症例，老年精神医学雑誌，23(11)，1343-1348。
- 厚生労働統計協会編集(2011)：国民衛生の動向・厚生 の指標 臨時増刊，58(9)，(財)厚生労働統計協会，東京。

赤沼恭子，関田康慶，目黒謙一(2010)：認知症に対する介護老人保健施設の機能 第一報介護機能の調査，訪問看護と介護，15(11)，895-901。

粟生田友子，長谷川真澄，太田喜久子，他 3 名(2007)：一般病院に入院する高齢患者のせん妄症と環境およびケア因子との関連，老年看護学，12(1)，21-31。

Nina M. Flanagan, Doona M. Fick (2010)：Delirium Superimposed on Dementia, Assessment and Intervention, Journal of Gerontological Nursing, 36(11), 19-23.

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

松澤有夏，渡辺みどり，千葉真弓 (2011)：施設入所高齢者に対するせん妄のアセスメント視点と発症予防および悪化防止の対応。日本看護福祉学会誌，16(2)，127-139。

[学会発表](計 5 件)

Yuka Matsuzawa, Midori Watanabe: Literature Review on Prevention Care of Delirium for Older Individuals with Dementia. 26th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2011.3.26-29, Toronto, Canada.

松澤有夏，渡辺みどり：生活リズム調整のための施設入所者の睡眠覚醒パターンの把握。第 24 回日本看護福祉学会全国学術大会，2011.7.30-31，駒ヶ根市。

松澤有夏，渡辺みどり：介護老人保健施設入所高齢者に対する「せん妄重症化予防ケアプログラム」の作成。第 33 回日本看護科学学会学術集会，2013.12.6-7，大阪市。

松澤有夏, 渡辺みどり: 認知症高齢者に対するせん妄重症化予防ケアプログラムの有効性の検討ー介入事例における行動・認知感情的機能・睡眠の変化からー, . 日本老年看護学会第 19 回学術集会, 2014.6.28-29, 名古屋市.

Yuka Matsuzawa, Midori Watanabe: Changes in professional autonomy and knowledge of caregivers after a delirium prevention care program for elderly with dementia. 30th International Conference of Alzheimer's Disease International, 2015.4.15-18, Perth, Australia.

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

江頭 有夏 ( 松澤 有夏 )  
(EGASHIRA, Yuka)  
長野県看護大学・看護学部・講師  
研究者番号：3 0 4 3 6 8 4